

資料2-1

要介護の要因**第1位**
「**認知症**」の対策強化

第2位「**脳血管疾患**」など
生活習慣病の対策強化

第3位
「**骨折・転倒**」の対策強化

認知症予防プログラムの普及 <認知症になるのを遅らせる>

健康無関心層への気づきの機会創出 <若い頃からの健康意識の醸成>

認知症対策 33百万円

生活習慣・健康状態見える化事業 12百万円

<認知症予防推進事業>

★野菜摂取量や骨密度の**見える化測定器の台数増**（2台→5台）

・令和6年度に、座学や運動、知的活動を組み合わせた「**認知症予防プログラム**」を開発

★香川県総合健診協会がイオンモール高松に**新たに設置する「かがわ健診プラザ」**において、**健診の流れに組み込む形での見える化測定の実施**や、県内ブロックごとに人の集まる場に出向いての**巡回測定会の開催**（年16回想定）

★多くの県民に体験していただくため、**市町介護予防教室等への管理栄養士、理学療法士などの専門職の派遣**を通じて**プログラムの普及**を図る

・**市町の既存事業と連動させた**
効果的な見える化測定の展開

R6年度 認知症予防プログラムの開発
→ R9年度 全市町への普及を目指す

骨粗しょう症検診の受診機会の創出
[R6年度4市町→R9年度全市町導入を目指す]



1日のプログラム構成（全8回）

座学(30分)	栄養、難聴など
運動(40分)	認知症予防運動
知的(20分)	計算、クイズなど

認知症予防プログラム(運動)



乳幼児健診での測定



スーパー等での測定キャンペーン

★市町での取組支援強化 7百万円

<市町支援事業等>

・骨折等の予防を推進するため、特定健診等の**必須の健診に加え、市町の骨粗しょう症検診の導入**を支援

- ①在宅保健師等による**人的支援**
- ②有識者による保健指導等に係る**技術的支援**

健康行動への変容・定着を促す仕掛けづくりの検討

社会学や行動学の専門家である「健康づくり政策推進アドバイザー」等を通して、**運動や栄養**に関する行動変容・定着を促す地域に応じた取組みや普及の仕方を検討、特に高齢者については、閉じこもり防止にもつなげる

<健康を保つための三要素>

新たな仕掛けづくり

- ①適度な「**運動**」⇒ **世代にあわせた効果的なウォーキングの普及**
- ②バランスの取れた「**栄養・食生活**」⇒ **推奨メニューの開発等**
- ③疲労回復のための「**休養**」

<その他、健康づくり事業>

- 健康づくり政策推進アドバイザー事業 9百万円
- がん対策・検診受診率向上 21百万円
- 禁煙・受動喫煙対策推進事業 1百万円
- 小児生活習慣改善事業 17百万円
- 歯周病早期発見支援事業 2百万円
- 等